

確認責任 Diligence

AIフルーエンシーの4つめの力。AIとのやり取りに責任を持つ「倫理」と「安全」を受け持つ力です。

確認責任の3つの要素 Three components

制作の確認責任 Creation Diligence

どのAIを選び、どう使うかをよく考える。学習データ・所有権・プライバシー・価値観・組織の方針を確かめる。

透明性の確認責任 Transparency Diligence

AIの関わりを、知るべき相手に正直・正確に明かす。誰に・いつ・どこまで伝えるか。

公開の確認責任 Deployment Diligence

使う・共有する前に、成果物の正確さ・適切さの責任を引き受ける。事実・バイアス・利用権を確認。

主なポイント Key points

- ・ほかの3つ（委任・描写・見極め）が「効果・効率」なら、確認責任は「倫理・安全」。AIとの協働に責任を持つ力です。
- ・世に出したものの責任は、AIではなく「あなた」にあります。出す前に確かめる。
- ・場面（個人・学業・仕事）で期待は違う。自分なりのルールを持ち、組織の方針・最新の動向も押さえる。

本資料は、本家コース「AI Fluency」の確認責任レッスンの内容にもとづく、非公式・日本語のまとめ（KAKEHASHI）です。Copyright 2025 Rick Dakan, Joseph Feller, and Anthropic. CC BY-NC-SA 4.0 ライセンスのもとで公開。